

## 最新統計

### 人口の推移

(単位:人)

市町名	平成17年 10月1日	平成22年 8月末	平成22年 9月末	平成22年 10月末
気仙沼市	78,011	74,631	74,550	74,466
南三陸町	18,645	17,719	17,713	17,706
合計	96,656	92,350	92,263	92,172
前月比	-	99.92%	99.91%	99.90%

### 世帯数の推移

(単位:世帯数)

市町名	平成17年 10月1日	平成22年 8月末	平成22年 9月末	平成22年 10月末
気仙沼市	25,510	26,678	26,662	26,648
南三陸町	5,335	5,364	5,363	5,365
合計	30,845	32,042	32,025	32,013

**平成21年9月1日に気仙沼市と本吉町は、  
合併しました。**

### 気仙沼魚市場水揚げ実績 (数量:トン, 金額:千円)

漁業別	平成22年(10月)		前年同期比	
	数量	金額	数量	金額
鮪延縄	1,177	486,141	218	73,787
鯉一本釣	5,404	1,494,377	2,842	573,472
秋刀魚受網	11,381	1,206,456	1,070	583,775
近海大目流網	547	110,864	98	36,775
旋網	1,426	143,389	635	92,153
定置網	331	66,151	201	50,367
船凍鮪延縄	22	1,675	22	1,675
冷凍いか釣	-	-	-	-
曳網・抄網	-	-	-	-
搬入	252	114,682	47	19,304
その他	196	62,774	72	3,680
合計	20,736	3,686,509	2,323	1,214,736

カツオの一本釣りの順調な水揚げや、後半に盛り返してきたサンマの魚価高などが好実績の要因。

## 「浜と水産試験場の情報交換会」の開催

(水産技術総合センター気仙沼水産試験場)

平成22年8月25日(水)、宮城県漁業協同組合気仙沼総合支所を会場にして、「浜と水産試験場の情報交換会」を開催しました。気仙沼・南三陸地域の沿岸漁業者や漁協職員の方々をはじめ、関係者80名に参加していただきました。はじめにワカメ加工の研究に長年取り組んでいる、岩手県工業技術センターの小野寺宗伸主任専門研究員から「高速攪拌塩漬装置によるワカメ加工作業の省力化」について講演していただきました。参加していたワカメ養殖業者の

方々は熱心に聴講しており、講演後は装置の値段や耐用年数等の具体的な質問が出されました。

続いて会場



(研修会の様子)

職員から近年の気仙沼湾の漁場環境や養殖技術上の問題に関する日頃の調査研究成果について報告を行い、参加者からは漁場環境調査の充実について要望が出されました。また、近年ワカメ養殖漁期の終盤に発生して被害を与える「スイクダムシ」に関する情報交換や、記録的な猛暑のなかでの種苗管理の方策について参加者と情報交換を行い、調査研究・技術指導について今後の取り組みへの参考となりました。

今後とも、会場では、気仙沼・南三陸地域の沿岸漁業活性化を目指して、支援していきます。

## 「気仙沼地域子ども虐待対策連絡協議会」の開催

(東部児童相談所気仙沼支所)

平成22年10月21日(木)、気仙沼保健福祉事務所を会場に、管内の児童福祉関係機関、教育関係機関、人権擁護機関、警察、医療機関等18機関から23名の方の出席をいただき、管内の児童虐待の現状と対策を話し合いました。

当協議会は、  
県レベルの「宮  
城県子ども虐待  
対策連絡協議  
会」と市町村の  
「要保護児童対  
策地域協議会」  
の中間に位置す



(会議の様子)

る組織で、虐待防止・予防に関する地域的な課題の把握と対策を考え、市町村の相談援助活動の支援や活動強化を目的に設置されているものです。

当地域の昨年度の児童虐待相談件数は、当支所が開設された平成18年度比較して約2.3倍となっており、昨年度の児童虐待相談件数が県内各圏域で減少傾向にある中で、唯一増加傾向を示しています。

虐待の予防や早期発見については、子どもを取り巻く関係機関が機能的に結びつき、情報や意識の共有を図りながら迅速な対応をすることが必要であるとともに、地域の方々が児童虐待に対する正しい理解と少しの支援を継続することが重要です。

当支所としては、今後も関係者や地域の方々への広報・啓発及び活動支援を行っていきたくと考えています。

### 「結核予防研修会」の開催

(気仙沼保健福祉事務所地域保健福祉部疾病対策班)

平成22年10月13日(水)、サンマリン気仙沼ホテル観洋を会場に、気仙沼保健所、気仙沼地区地域医療委員会及び社団法人気仙沼医師会の主催による「結核予防研修会」を開催しました。

「結核の診療とQFT検査の臨床～保健・医療・福祉

現場で役立つ  
最新結核医療  
情報～」と題し  
て、公益財団法人結核予防会  
結核研究所臨床疫学部長の  
伊藤邦彦氏が



(研修会の様子)

ら、「結核医療の基準」を軸に、結核の適正な診断と治療を行うためには喀痰の結核菌検査が重要であること、新しい検査であるQFT検査は潜在性結核感染症の診断や院内感染対策に有効であること、また、耐性菌を生じさせないように適切で効果的な抗結核薬の使用が大切であること等について、最新の動向を踏まえた専門的な御講義をいただきました。

結核は感染症ですので、早期診断・適切な治療・結核患者接触者の健診による蔓延防止対策が重要となります。当日は、約120名の管内の保健・医療・福祉に従事なさっている方々に御参加いただき、当管内の今後の結核予防対策の一層の充実に向け、意義ある研修の機会とすることができました。

### 「救急フェア2010」の開催

(気仙沼保健福祉事務所企画総務班)

平成22年9月9日(木)の「救急の日」に関連して、地域の皆様に救急医療についてより一層の理解を深めていただくため、9月4日(土)、気仙沼・本吉地域広域行政事務組合消防本部等の共催により、「救急フェア2010」をイオンリテール(株)ジャスコ気仙沼店で開催いたしました。

当日は、気仙沼女子高等学校の生徒の方に一日救急隊長として救急医療普及啓発活動に取り組んでいただいた他、心肺蘇生法の実技講習、高規格救急車等の展示、健康相談、献血等を実施いたしました。

また、救急医療普及啓発グッズとして、救急車の適正利用やいわゆる「コンビニ受診」の自粛を呼びかけるチラシ等も配布しましたが、救急医療は地域の皆様の御協力が不可欠ですので、今後ともよろしく願います。

共催団体

気仙沼・本吉地域広域行政事務組合消防本部、  
気仙沼地区地域医療委員会、社団法人気仙沼市  
医師会、気仙沼市献血推進協議会、宮城県気仙  
沼保健福祉事務所



(救急フェア2010の様子)

事業は現在、ダム本体工事のピークを迎えており、今後も地元地域の皆様、関係機関の協力のもと、平成24年度の完成に向け事業を進めています。



(定礎式の様子)

### 払川ダムで「定礎式」の開催

(気仙沼土木事務所ダム建設班)

南三陸町歌津の伊里前川に建設を進めている払川ダムにおきまして、平成22年9月7日(火)に工事の安全とダムの永久堅固を祈念し、定礎式を開催しました。

払川ダムは平成4年度から、洪水調節、流水の正常な機能維持、水道用水の供給を目的に進められている事業であり、地元では完成後には、観光等による地域活性化にもつながるものと大いに期待しているところです。

当日はあいにくの雨模様となりましたが、知事(代理副知事)、南三陸町長(代理副



(定礎式の様子)

町長)、国・県・町の議会議員、地権者、工事関係者約100人の出席をいただき、ダム堤体上の会場において挙行了しました。

副知事式辞、来賓祝辞、気仙沼土木事務所長工事報告の後、礎石を埋納しました。礎石の周りには地元伊里前小学校6年生23名の将来の夢や希望を書いたメモリアルストーンも納めていただきました。

定礎式後には、地元産そば粉の手打ちそばと、ホタテ焼きが地元の方々より出席者に振る舞われ、盛大に式を行うことが出来ました。

### 「豊かなむらづくり全国表彰事業

#### 東北ブロック表彰式」の開催

(気仙沼地方振興事務所南三陸支所農業農村整備班)

平成22年11月16日(火)、仙台市青葉区のKKRホテル仙台を会場に、平成22年度豊かなむらづくり全国表彰事業東北ブロック表彰式が開催されました。

宮城県からは南三陸町入谷で活動している、「グリーンウエーブ入谷構想促進委員会」が東北農政局長賞を受賞しました。

豊かなむらづくり全国表彰事業は、農山漁村にお

ける「むらづくり」優良事例の表彰及び業績発表を行うことにより、むらづくり活動の全国的な展開を助長し、地域の連帯感の醸成及びコミュニティ機能の強化を図り、農山漁村の健全な発展に資することを目的に行われています。

グリーンウエーブ入谷構想促進委員会は、メンバー手作りの直売施設「入谷サン直売所」の運営や、町の施設「ひころの里」でのイベントを開催し、町内のみならず都市住民との交流を行っています。

また、メンバーのうち7名の女性グループによる地元食材を活かした食事の提供も行っています。



(表彰式の様子)

### 東北農村教育青年会議で南三陸町の 高橋氏が最優秀賞を受賞！

(本吉農業改良普及センター)

平成22年11月4日(木)～5日(金)に福島県福島市で開催された東北農村青年会議において、本吉地区4Hクラブ連絡協議会の高橋浩幸氏が、宮城県代表として意見発表部門で出場しました。

高橋氏は、「成功へのカギ、3つの夢(ドリーム)キノコ」と題し、経営環境が厳しくなっている中でシイタケ栽培の経営発展に向けた取り組みについて発表し、見事最優秀賞を獲得しました。



(最優秀賞を受賞した高橋氏)

高橋氏は来年3月に行われる全国青年農業者会議で東北代表として発表を行うこととなっ

ており、さらなる発表内容の充実を図っていきたくと話していました。

普及センターでは、高橋氏の全国大会での発表や、今後の地域における農村青少年の組織活動を支援していく予定です。

### 宮城県農林産物品評会・宮城県花き品評会で 農林水産大臣賞をダブル受賞！

(本吉農業改良普及センター)

平成22年10月16日(土)～17日(日)に行われた宮城県農林産物品評会では、気仙沼市唐桑の千葉貫三氏が出品したりんごが、同日開かれた宮城県花き品評会では、南三陸町志津川の遠藤吉司氏が出品した輪ぎくが、それぞれの部門で第一位となり農林水産大臣賞を受賞しました。両氏とも、今年の不利な気象条件の中で優秀な果実や花を生産し、県内他産地の出品物を制したものです。

普及センターでは今後とも、このように優秀な園芸作物を生産する農業者の努力を後押しして、産地のレベルアップを図っていく予定です。



(農林水産大臣賞を受賞した千葉氏)



(農林水産大臣賞を受賞した遠藤氏)

## 南三陸町で宮城県育成品種の

### スプレーぎくを出荷中

(本吉農業改良普及センター)

宮城県農業・園芸総合研究所で育成されたスプレーぎく「オートムプリンセス」と「ロゼページェント」は、平成22年3月より苗が配布され、県内で栽培が始まりました。大河原や仙台ではすでに出荷が始まり、10月25日(月)現在、南三陸町で市場への出荷が最盛期を迎えています。待望の県オリジナル品種である2品種は、新たな宮城県の農産物ブランドとして期待されています。



(スプレーぎく)

もとより県内全域での作付が見込まれます。今後も普及センターでは、県育成スプレーぎくの生産拡大に向けて支援します。

南三陸町内の生産者は苗の販売も行う予定です、平成23年の春から本格的に販売し、管内は

## “簡易電気牧柵の放牧を拡げよう！”

### 「気仙沼・本吉地域放牧利用推進研修会」の開催

(本吉農業改良普及センター)

肉用牛経営では、低コスト生産や耕作放棄地対策のための一つ的手段として、簡易電気牧柵を使った放牧が注目されています。

そこで本吉農業改良普及センターでは、平成22年9月21日(火)に畜産農業者や市町及び農協等関係機関を対象として、気仙沼・南三陸地域放牧利用推進研修会を開催しました。

はじめに、南三陸合同庁舎の会議室で、飼料作物研究所の放牧アドバイザーである落合一彦氏から、耕作放棄地で放牧を行うメリットや安心して放牧を始めるための留意点などについて講話をいただきました。

次に、県内・管内における水田・耕作放棄地への放牧事例や、現地で行き組む際に活用できる制度につ

いて情報提供した後、現地の耕作放棄地に場所を移し、電気牧柵販売会社であるサージミヤワキ(株)の清水亨氏から説明を受けて牧柵を設置する練習をしました。今後も普及センターでは、放牧の事例が広がっていくよう支援をしていく予定です。



(研修会の様子)

## 農産物直売市とレストランが協力し

### かぼちゃ料理の試食会が開かれる

(本吉農業改良普及センター)

平成22年8月31日(火)に、気仙沼市リアス・アーク美術館内のレストラン「キッチンスペース夢の舎」でかぼちゃ料理の試食会が開かれました。

試食会には「にいつき軽トラ市」の出店者である女性ら7名が参加して、スープや羊羹、揚げサラダなどのかぼちゃ料理を堪能し、プロが考えた多彩で意外

な調理方法が、直売所をかぼちゃを販売する際にたいへん参考になった、という声が聞かれました。



(試食会の様子)

料理人の側からは、地元の農業者たちと交流ができて嬉しく、今回のレシピは季節の定番メニューとしたい、という意向を伺いました。

普及センターでは今後とも、農業者と実需者を結んで農産物の付加価値を高める、農商工連携への取組を支援していきます。

## “もとよし有機”たい肥の

### 「第1回現地検討会」の開催

(本吉農業改良普及センター)

本吉農業改良普及センターでは気仙沼市本吉町の有機肥料センターで生産される「もとよし有機」を使用して肥料費を低減する実証ほを設置していますが、その1回目の検討会を8月11日(水)に開催しました。

実証ほの内容は、4月に「もとよし有機」を散布し、その後窒素肥料のみを施用したものと慣行栽培の圃場を実際に見て比較するものです。

検討会には地元農家や関係機関30人ほどが参加し、それぞれの圃場の生育は大きな差がないこと、さらに肥料物材費は「もとよし有機」を使った方が10aあたり3000円程度低くなること等について、普及センターから説明を受けました。

今後は省力的なたい肥散布の方法について、市や農協など関係機関と検討しながら、肥料費の低減と循環型農業の実現に向け、支援を続けていきます。



(現地検討会の様子)

## 「みやぎ食材出合いの旅」の現地視察

(気仙沼地方振興事務所水産漁港部漁業調整班)

「みやぎ食材出合いの旅」は、宮城県産食材の使用を検討している調理人やバイヤー等を本県の生産現場に招へいし、生産者等と直接対話することで、本県産食材の理解をより一層深めてもらい、フェア開催並びに販路拡大を図っているものです。今回来訪したパンパシフィック横浜ベイホテル東急では、レストランにおいて県産食材を使ったフェアを行うため、平成

22年8月9日(月)に登米市で米や農産物を、8月10日(火)に気仙沼市で魚介類を視察していきました。

8月10日(火)は、ホテルのシェフや購買マネージャーなど3人が訪れ、気仙沼水産物流通センター、株式会社阿部長商店のかつお・まぐろセンターで食材の説明を受けながら生産現場等を見て回りました。その中でもメカジキに非常に興味をもち、取引につながるようになりました。

これによりメカジキ及び気仙沼の水産物の認知度アップや販路拡大につながればと期待しています。



(現地視察の様子)

## 南三陸米の仕事を

### 「地産地消の仕事人」に選ばれる

(気仙沼地方振興事務所地方振興部)

平成22年10月15日(金)、県気仙沼合同庁舎において、農林水産省の「地産地消の仕事人」に選ばれた「A南三陸営農生活部次長、阿部國博さんへの認定授与式が行われました。

南三陸米のPRや消費拡大への取り組み、田んぼ、生き物、地域の人々、それらをつなぐ活動が評価されたものです。

授与式では、副所長より農林水産大臣からの認定書が手渡され、「仕事人としての活躍、地域への地産地消の広がり期待します」との知事のメッ



(仕事人に選ばれた阿部次長)

セージが伝えられました。

認定書を授与された阿部さんは、「今後も多くの  
方々の理解と協力をいただきながら、地道に頑張っ  
ていきたい」と笑顔で話してくれました。今後のさらな  
る活躍が期待されます。

### 本吉響高校 フカ肉普及に大貢献！

(気仙沼地方振興事務所地方振興部)

宮城県本吉響高校家庭科クラブ主催のよるフカ肉  
(モウカサメ肉)を用いた料理研究会が、平成22年8  
月から10月にかけて、全5回開催されました。

この家庭科クラブには、本吉響高校の総合学科で  
フードデザインを選択している1・2年生9人が参加し  
ており、気仙沼で水揚げされるフカ肉を気仙沼の代  
表的な食材と  
しようと取り組  
んでいるもの  
です。



(取扱会社見学の様子)

オリジナルメ  
ニュー開発の  
ほか、気仙沼  
港でサメの水  
揚げが多い理

由や漁獲から流通、飲食店で提供されるまでの実態  
調査を行い、「気仙沼から広げようフカ肉レシピ～身  
近にあったフカ肉の挑戦」というテーマでフカ肉の消  
費拡大、地域活性化に貢献しようとする方策を研究  
しています。

また、先日開催された「県高校家庭科クラブ連盟  
研究発表会」において、本吉響高校家庭科クラブの  
研究が最優秀賞を受賞し、東北大会への出場を決  
めており、さらなる健闘が期待されます。

なお、気仙沼地方振興事務所では、地域振興の  
一環として消費  
者の認知度が  
低く、利活用  
について潜在  
的な可能性を  
秘めている  
“フカ肉”な  
どの地元食材の



(地元寿司店との意見交換の様子)

利用促進や消費拡大を図るため、地域住民の団体  
等が開催する料理講習会への食材提供等を行って  
おり、今回、本吉響高校の料理講習会において実施  
したものです。



(料理講習会の様子)

### 気仙沼地方振興事務所 スタッフ・ブログ開設しています！

(気仙沼地方振興事務所地方振興部)

今年の8月下旬に気仙沼地方振興事務所のスタッ  
フ・ブログを開設して、3ヶ月が過ぎました。この間、延  
べ約3万3,000人(IP)の方々に訪問していただき  
ており、一日平均80～100人に見てもらっている計  
算になります。

また、まだ数は少ないものの、掲載記事に対するコ  
メントも寄せられており、職員一同、地道に情報発信  
を続けることの大切さを実感しているところです。

今後も、職員(スタッフ)が、仕事やプライベートで  
知り得たグルメ情報などの地域情報等を“地元密着  
情報”として紹介していきます。

なお、このブログは、各種ブログランキングサイトに  
登録しており、アクセスランキングの上位になること  
により、より多くの方々に見ていただきたいと思っ  
ていますので、是非、御覧ください。

## 【ブログ・タイトル】

### 南三陸 & 気仙沼を体感！“来て見て浜ライン”

[http://blog.goo.ne.jp/akazara\\_boy/](http://blog.goo.ne.jp/akazara_boy/)



## 【あとがき】

実りの秋から冬将軍が現れそうな季節へと移り変わるこの時期、地元の豊富な食材をPRするイベントが県内各地で開催されており、先日、夢メッセでの食材王国みやぎフェアと気仙沼市唐桑でのリアス牡蠣まつり会場へ足を運んでみました。

夢メッセでは宮城県内のこだわり商品・自慢の一品を堪能し、唐桑では新鮮なカキやホタテ、りんごなど地元の生産物とそれを使った料理をたっぷりと味わってきました。そして、どちらの会場も来場者の笑顔でいっぱいでした。

巷では、TPPとかFTAとかの横文字が飛び交っていますが、一次産業をベースとして、加工、流通・販売・観光など、二次・三次も含めて地域内での連携・協力の努力なくして気仙沼・本吉地域の活性化は図れないとの思いを強くしました。さあ、みんなで元気に頑張りましょう。